

# 令和4年(2022年)度 学校自己評価システムシート (私立 春日部共栄中学校)

令和5年3月25日(土)

<学校関係者評価委員会>

協議委員(学校関係者) 7名  
内部委員(教職員) 8名

《目指す学校像》 全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。

※達成度：A=充分達成できた B=概ね達成できた C=変化の兆しが見られた D=不十分であった

評価項目(目標)	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価・要望等
①「至誠一貫」の精神に基づいた基本的な生活習慣の確立と道徳教育	a 声を出してきちんと挨拶ができるようになるための指導 →学校生活アンケート設問1で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問1で①②の回答率80%以上 b 公共の場でのマナーや周囲への配慮についての指導 →学校生活アンケート設問2で①②の回答率80%以上 c 相手の立場に立って考え、行動できるようにするための指導 →学校生活アンケート設問3で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問2で①②の回答率90%以上 d 日常的な時間管理、自己管理の指導 →学校生活アンケート設問4で①②の回答率80%以上 →学校生活アンケート設問6で①②の回答率70%以上 →学校自己評価アンケート設問3で①②の回答率80%以上 e 多面的、多角的、対話的な「道徳」の授業の実践 →学校生活アンケート設問5で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問4で①②の回答率80%以上 f 感染予防対策を意識した行動 →学校生活アンケート設問7で①②の回答率90%以上	a. 挨拶については生徒の89%、教員の79%が①②と回答。 b. 公共のマナーや周囲への配慮は生徒の92%が①②と回答。 c. 相手の立場に立って考え行動することについては、生徒の90%、教員の84%が①②と回答。 d. 日常の時間管理・自己管理について生徒の79%(設問4)、76%(設問6)、教員の68%が①②と回答。一方③④と回答した生徒が24%(設問6)いることに注意したい。 e. 道徳の授業は生徒教員ともに84%が①②と回答。 f. 感染予防対策の徹底については、生徒の95%が①②と回答。	A	・達成状況については、多くの項目で80%を超えている。その一方で、③④とネガティブな回答をした生徒も一定数いることに注意を払いながら、粘り強い指導を心掛けていきたい。 ・挨拶については、多くの教員が前向きに挨拶をする生徒が増えていると実感している。身近な教員以外の人への対応や公共マナーの意識向上につなげていきたい。 ・授業開始前の準備、着席を改善する必要あり。生徒の模範となるべく教員の意識改革が必要。 ・道徳の授業を通じて、ソーシャルスキルの涵養、年齢に応じた社会貢献・規範意識の向上につなげていきたい。 ・感染予防対策についての生徒の意識は高いレベルで維持されている。	・心の教育、ボランティア活動、自治活動等の課題をより詳しく分析し、教員と生徒の温度差の是正に向けた取り組みが望まれます。  ・自分の字で書く手帳『きろっくま』はとてもよい取り組みです。より効果的な活用法を模索して下さい。  ・生徒指導は、教員間の指導の温度差が生徒へ影響を与える可能性があります。情報を共有し一貫した指導を心がけて下さい。
②奉仕の精神の育成と自治活動の充実	a 日常的な清掃活動への取り組み →学校生活アンケート設問8で①②の回答率90%以上 →学校自己評価アンケート設問5で①②の回答率90%以上 b 状況に応じたボランティア活動、自治活動への取り組み →学校生活アンケート設問9で①②の回答率70%以上 →学校自己評価アンケート設問6で①②の回答率80%以上	a. 清掃活動①②の回答率は、生徒96%、教員69%。 b. ボランティア活動等の①②の回答率は、生徒57%、教員70%。生徒教員共に低い数値となっている。	B	・清掃活動については、生徒と教員の間で27%もの開きがある。互いの認識をすり合わせ、よりより学習環境の整備を心がけていきたい。 ・ボランティア活動、自治活動については、年間計画や目標を明確にし、学年の枠を超えた協力体制のもと、より活動を活性化していきたい。	・ウィズコロナ時代にマッチした学習スタイルを確立するとともに、今後もスパイラス学習、AL(アクティブラーニング)、グローバル教育を継続的に進めてもらいたいです。
③保護者との連携	a 保護者との日常的な意思の疎通 →学校自己評価アンケート 設問7で①②の回答率90%以上 b 保護者の意見に耳を傾け、期待に沿えるような努力 →学校自己評価アンケート 設問8で①②の回答率90%以上	a. 設問7の①②の回答率74% b. 設問8の①②の回答率79%	B	・今後も、生徒の些細な変化を教員が見逃さず、保護者に対する早め早めの情報提供を心がけ、連携を強めていくことが必要。 ・「傾聴」と「敬聴」の姿勢を大切に。	・楽しさ、面倒見の良さが甘えにつながっていないか。高校受験がないことが大学受験に向けた経験不足となっていないか。一貫生の進学実績伸び悩みの原因究明と、その解決に向けた取り組みが求められています。
④学力向上を目指した各種の取り組み	a スパイラル学習を意識した具体的授業展開 →学校自己評価アンケート設問9で①②の回答率80%以上 b 生徒個々の学習到達度を踏まえた補習等の実践 →学校自己評価アンケート設問10で①②の回答率80%以上 c 状況に応じた宿題、課題の提供と確認 →学校生活アンケート設問11で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問11で①②の回答率80%以上	a. スパイラル学習について①②の回答率63% 昨年比-26% b. 補習等の実践①②の回答率68% 昨年比-11% c. 宿題等の取り組みについて①②の回答率、生徒73% 昨年比-8%、教員69% 昨年比-16%	B	・全体的に、昨年と比べると数値が下がっている。今回のアンケート結果を踏まえ、各教科とも授業との関連性を考えながら、宿題の与え方や課題の設定を見直すこと、到達度をこまめにチェックすることが必要。	・チューター付自習室、メディアカル論文講習の活性化を期待しています。
⑤2期制・週5日・45分7限授業および2コース制を踏まえた取り組み	a 2期制を踏まえた授業や各種試験、学習の仕掛け等の工夫 →学校自己評価アンケート設問12で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問13,14で①②の回答率80%以上 →学校生活アンケート設問13,15で①②の回答率70%以上 b 長期休業中の取り組みと工夫 →学校生活アンケート設問14で①②の回答率70%以上 c コース別活動の充実 →学校生活アンケート設問16で①②の回答率80%以上	a. 学校自己評価アンケート 設問12、①②の回答率63% 設問13、①②の回答率79% 設問14、①②の回答率79% 学校生活アンケート 設問13、①②の回答率64% 設問15、①②の回答率73% b. 設問14、①②の回答率74% c. 設問16、①②の回答率88%	B	外部模試では、学力の伸長が見てとれる一方、家庭学習の定着は依然として課題が残る。『Blend』『きろっくま』などのツールを有効に活用し、長期休暇期間中も含め、学習習慣の確立を促していきたい。 ・1年生のコース別活動については、90%近くの生徒が興味関心を持っている。複数学年間の情報の共有や一層の内容の充実に努めたい。	・コース活動はとても魅力的です。春日部共栄中学校の生徒でよかったと思えることが、自己肯定感にもつながっていきます。時代の変化に対応しながら、この中学校だから経験できることを今後とも模索して行って下さい。
⑥リーダーズプログラムの実践と有効活用	a 「ワールドビュー」充実のためのはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問16で①②の回答率70%以上 b 講演会やK-SEPを、より効果的なものにするためのはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問17で①②の回答率80%以上 c 各種検定試験、コンテスト等への積極的な参加とはたらきかけ →学校自己評価アンケート設問18で①②の回答率80%以上 d Chromebookの有効活用の促進 →学校生活アンケート設問20で①②の回答率80%以上 →学校自己評価アンケート設問19で①②の回答率80%以上	a. 「ワールドビュー」充実について①②の回答率68% b. 講演会やK-SEPについて①②の回答率79% c. 各種検定試験、コンテスト等への積極的な参加について、①②の回答率79% d. Chromebookの有効活用について①②の回答率は、生徒93%、教員79%	A	「ワールドビュー」は朝学習の一環として毎日継続的に取り組んでおり、問題発見および問題解決能力の基礎を身につけるという観点からも、より工夫して継続していきたい。 ・それぞれのコース活動とリンクした講演会の実施や、K-SEP、カナダ研修などを通じた国際教育の更なる充実を図りたい。 ・Chromebookは、導入2年目に入り、朝学習や授業で積極的に活用されている様子が窺える。	